

水稻『きぬむすめ』における ナタネ油かすを用いた窒素施用方法

『きぬむすめ』で特別栽培米を安定的に生産する
ナタネ油かす施用法を明らかにしました。



収量・品質を
安定させたい...



ナタネ油かすは
なんぼまきゃ
ええだいや?



ズバリ!!

ナタネ油かすを用いた『きぬむすめ』
特別栽培米の生産は、基肥窒素6～8kg/10a
穂肥窒素2kg/10aが効果的です。

【基肥】



窒素6～8kg/10aの施用で、
葉色が濃くなり、茎数も十分量を確保できます！

ナタネ油かす(窒素5.3%含有)の
施用量は113～151kg/10aとなります。

【穂肥】



窒素2～4kg/10aの施用で、
精玄米重は500kg/10a以上となります！

ナタネ油かす(窒素5.3%含有)の
施用量は38～75kg/10aとなります。



窒素2kg/10aの施用では、4kg/10aの施用よりも
タンパク質含有率を低く抑えられます！

【具体的データ】

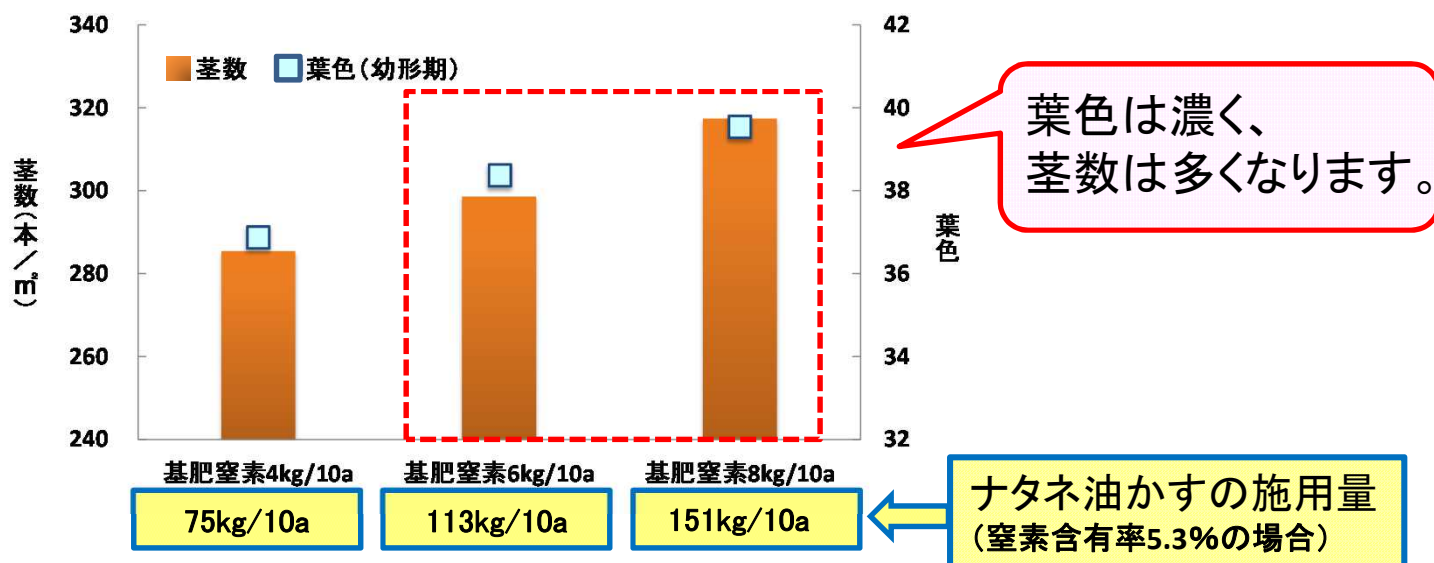


図1 幼形期の基肥窒素量と茎数・葉色の関係

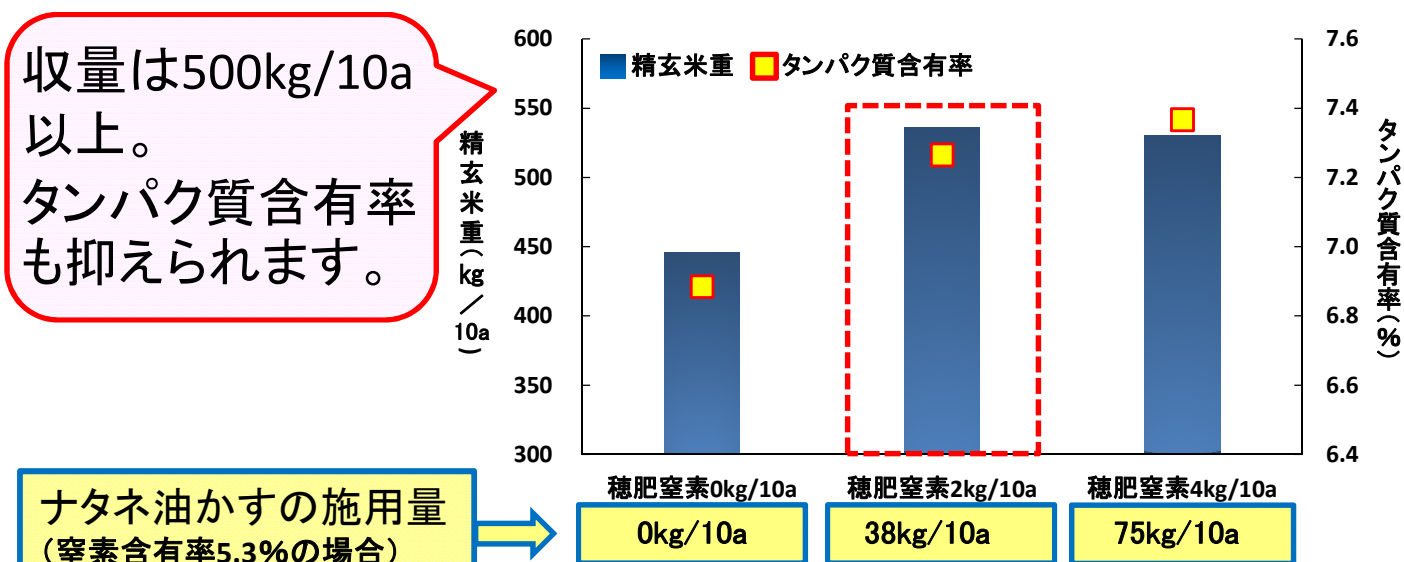


図2 穂肥窒素量と精玄米重・タンパク質含有率の関係

【留意点】

1. 農業試験場内ほ場(灰色低地土)で2016~2017年に実施した試験である。除草剤を用い、特別栽培条件下で栽培した。
2. 基肥は移植前10日に施用し、穂肥は幼穂長が1mm時に施用する。
3. 試験に用いたナタネ油かすの成分含有率は窒素5.3%、リン酸2%、加里1%であり、実際のナタネ油かす施用量は窒素2kgあたり約38kgである。
4. ナタネ油かすのリン酸および加里含有率は低いため、他の資材を用いて不足分を補う必要がある。